

柏樹

題字
南 勇 会長
川口市退職校長会
会報 第18号
平成31年2月1日



壺中の天

鈴木 東



ギヤグマンガ
「バカボンのパ
バに教わる日常
の小さな発見」
の中に、幸福と

は夢中になれる趣味があること(たと
え誰にも理解されなくとも)がある。

壺中の天は、後漢時代のお話に基づ
く句で、趣味・余技のことである。

私は中学卒業まで、用水路と水車が
目立つ見付の宿場町で育った。父は「人
は仕事7、趣味3の割合の時は楽しく
生きられるぞ」と水車の羽が水に浸っ
ている割合を例にとつて話してくれた
ことがあり、印象に残っている。

40歳から借地で農業を始めた。野菜
3、草花1の割合で現在まで続いてい
る。平成3年からツタンカーメンのえ
んどう豆を育て、今年も収穫を楽しみ
にしている。花やサヤがうす紫色なの
でアラオズ・パープルと呼ばれてい
る。花を目で見て楽しみ、豆ご飯に炊
いて古代のロマンの味を楽しんで28年

になる。

45歳頃、少年少女歴史小説・算法少
女(遠藤寛子著)に出会い、読んでみ
て父が話してくれた「趣味をもつこと
は楽しい」が少しづつわかりかけてき
て、農作業に力が入ってきた。

平成28年、美園図書館で再び算法少
女の復刻版(ちくま文芸文庫)を見つ
け、何回も読みかえた。

後漢の世に転時できる能力を授かり、
壺の中に入れてもらい、俗世を忘れる
快楽に耽つてみたい誘惑にもかられた。

一念発起して、退職半年前に書道教
室に入会した。半紙4文字書きの楷書
が書けるまでに3年もかかった。

古希の年、井垣北城(書家)さんの
隷書を見る機会に恵まれた。その日以
来、私の書く書体は隷書のみになった。

楷法を根底とした厚みと格調高い隷
書は、全く独創的であり、独自の発想
と独自の世界を生み出して、私の
知る限り他に例をみない書体ではな
いと思われた。見当がいかもしれない
が、私の大好きな画家ジョルジュ・
ルオーのうねりのある画法と北城さん
の墨の痕跡の重厚さには共通点がある
と思われ、胸を突かれたことがある。

傘寿をすぎた頃から、全紙大の和紙
に向かうと北城さんのお手本は、「遊
び心をもって楽しく筆遊びをしない
よ」と呼びかけていくられるような気
がして筆を下す喜びがわいてくるので
ある。

昨日や明日を考えていては、楽しく
生きられない。今日が一番若いのだと
思いこみ、壺中の天を楽しみ、悔い、
感じ、焦り、自然体で飄々と生き長ら
えたい。

生き生きとした 生活を求めて

野本 和子



両親の介護の
ために早期退職
して10年にな
りました。3年
前に父が亡くな

った時、介護が中心で家にこもりがち
の生活から町会やサークルなど外に出
て多くの人に接して、私なりに生き生
きとした生活をしたと思うようにな
りました。柏樹会の英会話クラブに参
加したのもこの頃からで、懐かしい
方々にもお会いすることができました。
また、「図書館お話し養成講座」に参加
し、子ども達を対象に物語を「覚えて
話す」ことを始めました。3年目に入
ってようやく余裕を持って「お話」が

できるようになったところです。
さらに認知症の予防に効果があると
言われる「健康マージャンクラブ」を
町会の仲間と立ち上げ私は幹事をして
います。新しい仲間ができて話が弾ん
でいても、ゲームでは素早く頭の切替
をしなければならず大変です。

今一番関心があるのが東京の街中に
ある超低山(都会の百名山)に登るこ
とです。「東京まちなか超低山めぐり」
(中村みつを著)の本に出会ってから、
本格的な山に行く時間のない私は超低
山の面白さに惹かれました。中でも富
士塚に親しみを感じるのは、最後の勤
務校・舟戸小学校の学区内の旧建物間
屋「鍋平」の別邸の庭に小さな富士山
があったからです。江古田富士塚など
の登山道には合目石や洞穴があり山肌
には富士山の溶岩が貼り付けられてい
て、当時の人々の富士山への畏敬の念
が強く感じられます。また富士塚とは
違いますが新宿戸山ハイツ裏の箱根山
には、3つの登山道があり頂上は広場
になっていて風景指示盤もあります。
昭和の時代までは沢山の子ども達が遊
び笑い声が響いていたそうです。これ
らの山々を築いた人々の願いごとや当
時の人々の生活、また風景などを思い
浮かべながら登っています。
母の介護のため時間に制約がありま
すが、柏樹会の教室やクラブにも参加
し刺激を受けながら生き生きとした生
活をしていきたいと思っています。

「ちょっといい話」

関東の水と伊奈氏の話

三國 隆夫

私の住む伊奈町の町名は、「伊奈備前守忠次」に由来しています。町では国の地方創生交付金を活用し、「忠次プロジェクト」として伊那氏屋敷跡(県指定史跡)の発掘調査や散策路整備、忠次まつり、講演会等の様々なイベントやYOUTUBEでの情報発信等で盛り上がっています。私は二の丸跡の発掘や「忠次」関連の講演を聞く機会があり、伊那氏への関心を持ちはじめたところです。

ところで、伊那氏のごとは、これまであまり知られていませんでした。Eテレの「知恵泉」という番組の防災特集で、伊那氏の行った事業が江戸の町や関東の農村を洪水の被害から救ったという内容で放送されました。その後もたびたび取り上げられ、知名度が徐々にながって来たように思います。

伊奈忠次は、徳川家康の信頼が厚く、1590年、家康の関東への国替えに伴い、武蔵国小室・鴻巣等に一万石の領地を与えられ、現在の伊奈町に陣屋を構えました。忠次は家康に仕えた代官の中で、特に有力な4人の代官頭の一人として利根川の東への流路付け替

えや新田開発、検地などを行い、関州の天領を治め、家康の国づくりの礎を築いたと言われています。

その後、次男の忠治が現在の川口市赤山に陣屋を築き、初代関東郡代として利根川の流路を東京湾から千葉県銚子方面に流す東遷の実現や荒川の流路変更等による治水事業、江戸川の開削等の利水事業を行いました。忠治以後十代にわたり、伊那氏は様々な治水・利水などの事業を行い、関東を一大農業生産地帯としました。また、河川の通航により江戸を中心とする物流の発展にも貢献したということです。

茨城県水戸市にある備前掘用水の開削に尽力したことにより、忠次の銅像が建てられたり、水戸郷土カルタに備前堀が取り上げられています。これは一例ですが、伊那氏の関東史跡は県内にとどまらず、都内、静岡県、長野県、愛知県など各地にあり、訪ねるのも楽しみの一つです。

過日、川口市で日光御成道まつり特別企画として、伊那氏ゆかりの川口市、つくばみらい市、伊奈町の首長が「伊那氏の魅力を語る」というテーマで「伊奈サミット」が開催されました。先人の功績が現代の私達の豊かな生活の基盤を築いたことに感謝しつつ、歴史が織りなす縦と横のつながりに思いをはせるこのごろです。

健康であるために

白尾由美子

小学校時代は3日、中学校・高校・大学時代は0日。これは、私の病気による欠席日数です。そして、38年間の教員時代も1日でした。子供の頃から身体がたいへん丈夫だったので、両親には本当に感謝しています。

そんな身体が丈夫だと自負していた私が、退職した途端、2度もお医者様のお世話になってしまいました。5月には風邪をこじらせて声が全く出なくなり、8月には胃腸の調子が悪くて何も食べられない日がありました。改めて、体調だけでなく何事も、「今までは〇〇だったのに。」と考えてはいけなさと、自分に言い聞かせました。

さて、そろそろ本題に入りたいと思います。初めに、身体の健康についてです。毎週日曜日の午前中、私はスポーツクラブに行って水泳をやっています。クロールと平泳ぎの繰り返しを50セット、合計2500m泳いでいます。その後は、炭酸泉にゆっくり浸かり、最後にマッサージ器で筋肉をほぐします。これが私のいつも変わらないメニューです。

現役の方先生方が読んだら、「暇でないなあ。」と思うかも知れませんが、私が水泳を始めたのは教諭の時、今

年で25年目になります。忙しかった教頭・校長時代も、行事等がない時にはできる限り泳ぎに行き、気分転換をしていました。時には、泳ぎながら仕事のことを考えてしまうこともありましたが、泳いだ後は気分がすっきりして、「月曜日から一週間また頑張ろう。」という気持ちが出てきました。そして、このおかげで心身の健康を維持することができたと思っています。

次に、頭の健康についてです。今のところ、特にやっていることはありません。フルタイムで働いているので、何かを始めたら、きっと忙しくなってしまうだろうと思います。しかし、現役の時より頭を使って考えることが減ってしまったので心配でもあります。

そこで、新聞に掲載されている「クロスワード」と「数独」の問題を解答しています。クロスワードは、縦と横の問題に従ってマス目に言葉を入れます。数独は、縦・横・ブロックに1から9までの数字を入れ、同じ数字がダブルにならないようにします。このぐらいでは頭の健康を維持することはできませんので、仕事を辞めたら頭の健康につながることをやろうと思っています。

あと3か月で平成が終わり、世の中は益々変化すると思います。平成から〇〇になっても、身体も頭も健康で、平穩無事に暮らせる日々が続くことを切に願っています。

—日々雑感—

絵のこと

米澤 実

退職して5年目になり、特にすることもないので、東京の谷根千辺りをよく散歩しました。西日暮里の富士見坂近くに美術研究所があり、小品展を開催していました。中に入ると、研修生募集の掲示があり、時間ができたら絵を描きたいと思っていましたので、少し迷いましたが、思い切って通い始めました。

研究所では、木炭デッサンから始めてパステル画を半年位やり、油絵を描くようになりました。週2日は講師が来て指導してくれるのですが、なかなか思ったようにはいきません。途中で何度もやめようと思いましたが、比較的自由に自分のペースで描ける雰囲気だったので、続けることができました。人物や静物を月ごとにモチーフを変えて描いていきます。研修生は自分と同年代の方もいて、日によって違いが3〜10人位で描き、一人の時もありました。何人かが集まって絵を描くのはとてもいいことだと思います。一緒に描いている人から、教えてもらうことが沢山ありました。午前中休憩を挟んで2時間半位描きますが、後片付け

をして帰ると午後2時になる、そんな生活を2年近く続けて、展覧会にも出品するようになりました。研究所の手前に地藏坂という長い坂があります。その坂が上がれなくなったら、研究所には来なくなる、そんな話を聞きました。最近、自分もそれに近づいてきたのかと感じています。今思うと、気がならないと休んだりして、あまり真剣でなかったことを少し後悔しています。

現在は、時々クロッキー教室に通ったり研修会に行く他は、少し大きな作品を家で描いています。年4回程、公募展などに出品していますが、会場にある自分の絵を見ると、小さくてこれが自分の姿だと思っています。

8月下旬に、柏樹会絵画クラブで山中湖にスケッチ旅行に行きました。富士山はほとんど姿を見せてくれませんでした。流れるように変わる雲と湖面の輝きがとても印象的でした。帰りには、新宿で反省会をするなど、楽しい2日間でした。

絵を始めてから5年が過ぎました。絵具を無駄にしているだけかも分かりませんが、続けて良かったと思います。一寸大袈裟な言い方をすれば、自分の小さな世界が広がってきたような気がします。いつまでできるか分かりませんが、好きなことをさせてもらっていることに感謝して、意欲がある内は描ければと思っています。

思うがままに

—話題3つ—

福田 和子

退職してから早10年、教育から遠ざかり知力も感覚も大分鈍がかってきたかなと思うこの頃、某大学教授(全国大学入学者選抜研究連絡協議会委員)の講話を拝聴する機会を得た。

講話の要旨は、高校生・大学生の学力低下が著しく、大学で高校の補習授業を51%で行っている実態である。また高校1・2年生の約3割は家庭で勉強を全くしないという。スマホ・PCなどは一日4時間以上、ネット依存といわれる高校生は16%にのぼること。学生の力は多面的に伸ばすことが必要だが、大学は課題を出さず、アクティブラーニングやフィールドワークなど殆ど話題にのぼらない現状である。

平成29年に文科省は「高大接続改革の動向について」公表。高等学校教育改革・大学教育改革と大学入学者選抜改革のスケジュールを示した。大学入試が変われば高校教育が変わるという理念のもと、2021年に「大学入学共通テスト」を実施する段取りであるという。

先生方の努力で大きな効果をあげている現在の義務教育は素晴らしい。

しかし、大学入試が変わるとその影響(あおり)を受ける危惧があるので、改革を実施する以上、効果的に進めてほしい。

話題変わってTBSラジオ「伊集院とラジオ」、ゲストは辰巳琢郎氏。クイズ番組で「京大卒なので分かって当たり前」という空気が流れる「そのプレッシャーはきつい」と言う。最近、クイズ番組に東大生も出場し、確かに強い。「こんなんで大丈夫か、日本は…」と苦言を呈した。「日本の教育予算を大半まあ半分位注ぎ込んでいる東大を出てね。クイズ番組はないだろう」と厳しく指摘しつつ、辰巳自身の京大については「別に国を支えるための大学ではないから、まだいいよね」と擁護した。伊集院氏は、東大生がクイズ番組のための勉強をしていることで、「東大王の番狂わせが起こり難くなっていると指摘した。このような学生は、少数であると信じたいものです。

母校の同窓会、今まで無関心でいた罪滅ぼしの意味も含めて南部地区の支部長を引き受けましたが、ほぼ毎月ある本部会。他の日程との調整に苦労します。合同理事会の折に合唱や演奏でもてなしてくれる女子高校生や部活に励む生徒を眺めながら、自らの進路を見つめ、グローバルに真つすぐ進んでほしいと願う親心のようなものを感じているシニアです。

全小社研埼玉大会を終えて

川口市立本町小学校 関口景子
川口市立戸塚北小学校 岩本好則
川口市立鳩ヶ谷小学校 清水健治

平成30年10月25日・26日の2日間にわたり、第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会埼玉大会を川口市を会場に開催しました。全国から2日間で延べ1500名の方々の参加者を得た全小社研埼玉大会の概要についてご報告いたします。

1 大会主題

「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

2 全体会・講演会

10月25日(木) 川口総合文化センター・リリア(音楽ホール)

荘厳なパイプオルガンの音色で参加者を会場内に迎え入れました。

埼玉大会研究主任から大会主題・研究概要「わかる」の質を高め、社会とのかかわりを重視する。「問い」「学び合い」「振り返り」を研究の視点として理論と実践を積み重ねてきたことを全国からの参加者に説明しました。

全体指導者として、文部



科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 小倉勝登先生から指導講評をいただき、新学習指導要領移行期の位置付け、埼玉大会の意義などに触れられ、多くの参加者の方々にとって大変有意義な時間となりました。

記念講演として、国土館大学教授(前文科省初等中等教育局視学官) 澤井陽介先生に、「授業の見方」社会科学の授業をどう見るか」を演題にご講演いただきました。深い学びのとらえ方ははじめ、社会の授業を見る視点(指導案から、板書から、子供の表現から)を切り口にこれからの社会科学の授業の方向性を示唆していただきました。

3 公開授業・研究会

10月26日(金) 各会場校

全学級公開授業(1・2年は生活科、3・6年は社会科)、会場校全体会、学年別授業研究会(3・6年社会科)、学年別課題研究会(各会場校で8つの分科会を設定し研究協議)

第一会場校 本町小学校

◇研究主題

「社会的現象の見方・考え方を働かせた思考力の育成」

◇会場校指導者 北俊夫先生(総

括初等教育

者 北俊夫先生(総括初等教育

者 北俊夫先生(総括初等教育

者 北俊夫先生(総括初等教育

者 北俊夫先生(総括初等教育

者 北俊夫先生(総括初等教育



研究所参与、前国土館大学教授) 研究の概要

◇研究の概要

問い、話し合い、振り返りを研究の視点に、「基礎力・思考力・実践力」を身に付けた児童の育成を図る。

①見方・考え方を働かせ、問いや動機を生み出す効果的な資料の工夫

②主体的・対話的で深い学びを促す「思考の可視化」の工夫

第二会場校 戸塚北小学校

◇研究主題

「自ら問いをもち、学び合う授業を通して」

◇会場校指導者 安野 功先生(國學院大学教授)

◇研究の概要

①問い(自ら問いをもつ)の追究

を通して学びを深める

②自分の考えをもち、ともに学び

合い高め合う「学び合い授業」の工夫

※座席表指導案「教師型」「子供配布型」を場面によって使い分けしながら効果的な活用を図った授業実践。



第三会場校 鳩ヶ谷小学校

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇研究主題 「社会とのつながりを考える続ける児童の育成」

◇会場校指導者 桐谷正信先生(埼玉大学教授)

◇研究の概要

①柔軟な学習過程(2サイクル等の問題解決的な学習過程の工夫)

②社会的現象と自分たちとのつながりを問い直す活動(意味や価値に迫る「切実にする」問い直し等)

③振り返りによる深い理解おわりに

戦後初の学習指導要領で「社会科学」という教科が示される前に、全国に発信された「川口プラン」発祥の地、川口市で社会科学の全国大会を開催できたことは大変意義深いことと感じています。大会会場校としても、貴重な機会を与えていただき、社会科学・生活科好きの子供達、教師を数多く育成できたことが成果の一つとして挙げられます。

指導者の先生方をはじめ、多くの関係各位の皆様のご指導、ご支援に厚く御礼申し上げます。(文責 清水健治)

編集後記

私は、月に2、3度勤務先の小学校の地域を自転車で回っている。その地域には自然が多く残っていて、季節により山茶花、梅、木蓮、桜等が色とりどりの輝きを見せてくれる。遠くから眺めていても、その花の香りが風に乘って楽しませてくれる。これから暖かくなるにつれて自転車で乗るのがますます楽しい季節になる。(村田文夫)